

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名 : セメダイン P P X  
整理番号 : GJ0035-12  
会社名 : セメダイン株式会社  
住所 : 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー  
担当部門 : 環境安全衛生部  
電話番号 : 03-6421-7413  
F A X 番号 : 03-6421-7416  
緊急連絡先 : 03-6421-7413  
推奨用途及び使用上の制限 : シアノアクリレート系接着剤

### 2. 危険有害性の要約

#### 【GHS分類】

物理化学的危険性	: 引火性液体	区分 4
健康に対する有害性	: 急性毒性(経口)	区分外
	: 急性毒性(経皮)	区分外
	: 皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分 2
	: 眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性	区分 2B
	: 皮膚感作性	区分 1
	: 特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分 3 気道刺激性

\* GHS分類の判定区分が分類対象外及び分類できない項目に該当する危険有害性は省略。

#### 【GHS ラベル要素】

絵表示 :



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 :  
・可燃性液体  
・皮膚刺激  
・眼刺激  
・アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ  
・呼吸器への刺激のおそれ

注意書き : [安全対策]

- ・熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙
- ・ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
- ・取扱い後は暴露又は暴露の懸念のある部分をよく洗うこと。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。

- : [応急措置]
  - ・皮膚に付着した場合は、多量の水と石鹼で洗うこと。
  - ・皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
  - ・吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
  - ・眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
  - ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。
  - ・火災の場合は、適切な消火器(粉末・泡・二酸化炭素)を使用すること。
  - ・気分が悪い時は医師に連絡すること。
  - ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- : [保管]
  - ・容器を密閉して換気のよい涼しい場所に保管すること。
  - ・施錠して保管すること。
- : [廃棄]
  - ・内容物及び容器は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託する事。

### 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物  
 化学名 : シアノアクリレート系接着剤

成分	含有量(%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
エチル 2-シアノアクリレート	90~100	2-2789	7085-85-0
アクリル樹脂	1~5	非公開	非公開

危険有害成分：エチル 2-シアノアクリレート

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。  
気分が悪い時は、医師に連絡する。
- 皮膚に付着した場合 : 無理にはがさず、多量の水と石鹼で洗うかもしくはぬるま湯でもみほぐしながらゆっくりはがす。  
皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断/手当てを受ける。  
汚染された衣類はすべて脱ぐこと。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、洗浄を続ける。  
眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 気道が塞がれていないか確認する。異常がある場合は直ちに医師の診断を受ける。唇が接着された場合は、無理に剥がさないこと。(通常は唾液により数時間後に自然に剥がれます。)
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は状況に応じて適切な保護具(保護眼鏡、保護衣、有機ガス用防毒マスク)を着用する。

### 5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末、泡、二酸化炭素消火剤。
- 使ってはならない消火剤 : 特になし。
- 特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、有害性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- 消火を行う者の保護 : 適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、保護衣、有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器等)を着用して消火作業を行う。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置 : 作業者は適切な保護具を着用して作業を行い、ガスの吸入や眼・皮膚への接触を防止する。密閉された場所に入る前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 環境への流出防止を図り、環境へ影響を起こさないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 漏出源を遮断し、土砂等を用いて流出を阻止する。  
少量の場合、ポリエチレン製又はニトリルゴム製手袋を着用し、布等で素早く少量ずつ拭き取る。一度に多量に拭き取らない。布などに接着剤が多量に染み込むと、急速に重合し発熱することがあるので注意する。その後、密閉できる容器に回収する。もしくは大量の水をかけ硬化させた後、密閉できる容器等に回収する。
- 二次災害の防止策 : 付近の全ての着火源となるものを速やかに取り除く。

## 7. 取扱い及び保管上の注意取扱い

- 技術的対策  
所排気・全体排気 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用する。局所排気・全体排気 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気・全体排気を行う。
- 注意事項  
(安全取扱い注意事項) : 火気厳禁。  
眼、皮膚との接触を避けること。  
空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
一度使用した液は容器に戻さないこと。
- 保管  
技術的対策 : 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱う為に必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。
- 混触禁止物質 : 「10. 安全性及び反応性」に記載の物質と同一の場所に置かない。
- 保管条件 : 火気厳禁。  
密閉して、湿気の少ない 20℃以下暗所に保管する。
- 容器包装材料 : 製品用に安全性が認められた容器のみを使用すること。

## 8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度 : 日本産業衛生学会(2010年版) 設定されていない。  
A C G I H (2010年版) TWA 0.2ppm(エチル 2-シアクリレート)
- 設備対策 : 空気中の濃度を管理濃度/許容濃度以下に保つために局所排気装置などの適切な換気装置を設置する。  
この物質を取扱う作業場付近に手洗い、洗眼器、安全シャワー等を設置する。
- 保護具  
呼吸器の保護具 : 保護マスク(簡易マスク、有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器等)  
手の保護具 : 保護手袋(ポリエチレン製又はニトリルゴム製)  
眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡、側板付き眼鏡、ゴーグル型)  
皮膚及び身体の保護具 : 遮顔面、保護衣

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色	: 無色～淡黄色透明液体
臭い	: 刺激臭
pH	: データなし
融点/凝固点	: -29.6°C (エチル 2-シアノアクリレート)
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 54-56°C/3mmHg (エチル 2-シアノアクリレート)
引火点	: 75°C (エチル 2-シアノアクリレート)
爆発範囲	: 下限 1.7vol% (エチル 2-シアノアクリレート)
蒸気圧	: <0.27kPa(25°C) (エチル 2-シアノアクリレート)
蒸気密度(空気=1)	: 4.3 (エチル 2-シアノアクリレート)
比重(相対密度)	: 1.040(20°C) (エチル 2-シアノアクリレート)
溶解度	: データなし(アセトンに可溶)
オクタノール/水分分配係数	: データなし
自然発火温度	: 485°C (エチル 2-シアノアクリレート)
分解温度	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性	: 一般的な貯蔵・取扱いに於いて安定である。
危険有害反応可能性	: 水、塩基性物質などとの接触、混入或いは高温、高湿、直射日光により、発熱を伴い、急速に重合することがある。 皮膚に接着すると発熱を伴い瞬間的に接着する。
避けるべき条件	: 高温、高湿、直射日光及び混触危険物質との接触。
混触危険物質	: 酸、アルカリ、過酸化剤、酸化剤、還元剤
危険有害な分解生成物	: 燃焼により CO <sub>2</sub> 、CO、NO <sub>x</sub> 、シアン化物等を発生するおそれがある。

## 11. 有害性情報急

性毒性(経口)	
【エチル 2-シアノアクリレート】	: ラット LD <sub>50</sub> >5000mg/kg 推定 (腹腔内ラット LD <sub>50</sub> 6.76ml/kg)
急性毒性(経皮)	
【エチル 2-シアノアクリレート】	: ウサギ 2000mg/kg で死亡報告がない
急性毒性(吸入: 蒸気)	
【エチル 2-シアノアクリレート】	: データなし
皮膚腐蝕性及び皮膚刺激性	
【エチル 2-シアノアクリレート】	: ウサギの皮膚刺激性試験で軽度の刺激性報告有り。ヒトの単回皮膚曝露では刺激性は認められていないが、繰り返し曝露で可逆性の皮膚刺激性が報告有り。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	
【エチル 2-シアノアクリレート】	: ヒトで眼への刺激性影響(角膜上皮損傷、霧視)が見られたが1週間以内に完全に回復している。又、ウサギの眼において3日で回復する軽度の刺激性報告有り。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
【エチル 2-シアノアクリレート】	: 皮膚感作性は動物によるデータは得られていないが、ヒトについては皮膚で2件の症例の報告有り。
生殖細胞変異原性	
【エチル 2-シアノアクリレート】	: マウスによる腹腔内投与後の骨髄細胞を用いた小核試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)において陰性結果。
発がん性	
【エチル 2-シアノアクリレート】	: データなし
生殖毒性	
【エチル 2-シアノアクリレート】	: データなし

特定標的臓器毒性 (単回暴露)

【エチル 2-シアナクリレート】 : ラットの吸入曝露による気道刺激性の報告及びヒトでの気道刺激性の報告有り。

特定標的臓器毒性 (反復暴露)

【エチル 2-シアナクリレート】 : データ不足

吸引性呼吸器有害性

【エチル 2-シアナクリレート】 : データなし

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性 : データなし

残留性/分解性 : データなし

生体蓄積性 : データなし

土壤中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : データなし

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 「7. 取扱い及び保管上の注意」の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意事項に従うこと。  
廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。

## 1 4. 輸送上の注意

### 国際規制

#### I M D G (国際海上危険物規則) コード

国連番号 : 該当しない

国連輸送名 : 該当しない

国連分類 : 国連勧告の定義上、危険物に該当しない。

容器等級 : 該当しない

海洋汚染物質 : 非該当

#### I C A O - T I (国際民間航空機関技術指針)

国連番号 : 該当しない

国連分類 : 国連勧告の定義上、危険物に該当しない。

国連輸送名 : 該当しない

包装等級 : 該当しない

### 国内規制

消防法に於ける第4類第3石油類に該当するので、同法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。消防法：第4類第3石油類 危険等級Ⅲ(非水溶性液体 2,000 ㎖)

海上規制情報：消防法、船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報：消防法の規定に従う。

陸上規制情報：消防法の規定に従う。

### 輸送の特定の安全対策及び条件：

「7. 取扱い及び保管上の注意」の項の記載による他、引火性液体に関する一般的な注意

事項に従うこと。火気厳禁とする。輸送前に容器が密閉され、漏れのないことを確かめ、転倒、落下、破損がないように積載すること。荷崩れの防止を確実に行う。収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 法第 57 条第 1 項、  
施行令第 18 条 別表第 9 (2-ジアクリル酸エチル)  
名称等を通知すべき危険物及び有害物 法第 57 条の 2、施行令  
第 18 条の 2 別表第 9 (2-ジアクリル酸エチル)  
化学物質排出把握管理促進法 : 該当しない  
消防法 : 第 4 類第 3 石油類 危険等級Ⅲ(非水溶性液体 2,000 ㎖)。  
毒物及び劇物取締法 : 該当しない。

## 16. その他情報

引用文献 : (1)製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム  
(2)事業者向け GHS 分類ガイダンス  
(平成 25 年度改訂版(Ver. 1.1))  
(3)職場のあんぜんサイト  
(4)日本産業衛生学会(2010 年版)  
(5)ACGIH (2010 年版)  
(6)JIS Z 7253:2012  
(7)JIS Z 7252:2014

改訂履歴 : 作成 1998 年 7 月 8 日  
最新改訂 2018 年 6 月 6 日

本安全データシート(SDS)は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しておりますが含有量、物理化学的性質、危険・有害性に関しては安全な取扱いを確保するための参考情報であり、いかなる保証をなすものではありません。この情報は、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS中の注意事項は通常取扱いを対象にしたものであって、製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品をご使用ください。

2018年7月1日改訂の労働安全衛生法に則して作成したものです。2018年7月1日以降、変更の可能性がある場合には、最新の情報に基づき作成する予定としております。